

植物名（和名）には、生育地域の地名を冠するものが見られます。主として、その土地の固有種や特徴的に群落を形成する種に多いように思います。キシマツツジ（霧島躑躅）、ヤクシマスミレ（屋久島堇）、シナノナデシコ（信濃撫子）、リシリソウ（利尻草）などです。これらは冠する地名がわかりやすく、どのあたりに分布する植物なのか、和名をみただけで想像がつかます。ところが一見よくわからない地名を冠する植物もあります。

それが「ムニン***」という植物です。ムニンヒメツバキ（無人姫椿）、ムニンレンギョウ（無人連翹）、ムニンノボタン（無人野牡丹）などです。この「ムニン（無人）」とは、実は小笠原諸島のことを意味しています。小笠原諸島がかつて「無人島」だった時代（幕末の天保年間／1840 年頃まで）に「無人島（むにんじま）」と呼ばれていたことに由来します。主として明治初期までに命名された植物に、「ムニン」を冠するものが多いようです。その後は「オガサワラ」を冠するものが増えています。オガサワラアザミ（小笠原薊）などはその例です。

小石川植物園の新温室は、小笠原諸島産の「生きた植物」のコレクションで有名です。その中にも「ムニン***」という植物が多く見られます。先日行った時には「ムニンツツジ（無人躑躅）」の白い花が咲いていました。ムニンツツジは「危惧」あるいは「絶滅のおそれのある状態」（絶滅危惧種）の中でも、最もランクが上の、**Critically Endangered (CR)** - 「絶滅寸前」（絶滅危惧 IA 類）に指定されています。「絶滅寸前」というのに特別扱いされるわけでもなく、ごく普通の小さな植木鉢の中で、何か一生懸命に咲いているように見えました。そんな貴重で珍しい植物を、自宅のある文京区内で見られるのは、素晴らしいことです。

（2025 年 11 月上旬／小石川植物園新温室）

